

2021 年 1 月提出

## 保育士不足の社会学的考察

2020 年度卒業論文

九州大学文学部

社会学・地域福祉社会学研究室

2016 年入学

## 要約

本論文は、保育士不足に焦点をあてその原因がどこにあるのかの一因を示している。全体の構成は、先行研究などをとおして現状を示し、その後保育士の採用について詳細を記述している。そしてインタビュー調査をおこないその考察を述べる4部構成である。第1章で本研究の目的を示す。第2章では、保育士を取り巻く環境について、先行研究をまとめるながらどのようなものなのかを提示する。特に、配置基準に注目し、海外と比較した際に、日本の基準が低いものであるということが第2章で明らかになる。第3章でそのなかでもとりわけ採用に注目する。これは、本研究の主題である保育士不足の原因が、学生の選択肢の狭さにあると考えているためである。現状の採用活動の課題点は、正規実習を行った施設のみが就職先の選択肢となっていることであると第3章でわかる。第4章では4名の方のインタビュー調査をおこなった。保育の領域に携わっているという点では共通しているが、それぞれ立場が異なるため、考えや考えのための視点が異なっている。戸田氏は「時代のニーズ」を大切にしている。赤松氏は、保育に携わる子ども、保育士、親が快適に過ごせる環境を追求している。悦田氏は、学生をはじめとした保育所に就職を希望する人々への支援に情熱をもっている。Y氏は現場で働くなかでの苦労や理想を語っている。第5章で、インタビュー調査をもとに考察をおこなっている。研究の目的であった、就職活動と保育士不足の関連性については3節で特に言及している。またそれ以外にも日本に伝統的な組織体制を継続していることと、国が設定している配置基準にも注目して考察している。最後に結論として、新たな取り組みや、考えは受け入れられることは容易ではないが、それが保育の領域の改善につながることは明らかであり、今後もそのために法改正や環境づくりが必要であることを示している。以上が本論文の概要である。

## 目次

1 本研究の目的 .....	1
2 保育士の環境 .....	3
2-1 保育所 .....	3
2-1-1 先行研究 .....	3
2-2 配置基準 .....	8
2-2-1 日本 .....	8
2-2-2 海外 .....	9
3 保育士の就職活動 .....	12
3-1 保育士の採用 .....	12
3-1-1 保育士資格 .....	12
3-1-2 保育士の採用 .....	17
3-1-3 短期大学生の場合 .....	18
3-2 企業における就職活動 .....	22
4 調査 .....	25
4-1 調査の概要 .....	25
4-2 社会福祉法人音色会 .....	25
4-2-1 理事長 .....	25
4-2-2 保育部門統括 .....	29
4-3 任意団体 Emilllia .....	33
4-4 現役保育士 .....	38
5 考察 .....	42
5-1 保育所のステレオタイプ .....	42

5-2 適切な配置基準 .....	43
5-3 就職活動 .....	44
6 結論.....	45